

COOP トリプルカード みやぎスマイル基金 助成活動報告書

団体名	いしのまきリサイクリエーション研究会
連絡先	〒986-0861 宮城県石巻市蛇田字上中塚 95 C 棟・サステナブルデザイン工房 内 (団体電話) 090-6228-0535 (団体FAX) 0233-45-2856 (団体e-mail) info@susdeko.main.jp (団体ホームページ) http://susdeko.main.jp/
代表者名	ナガヌマ トシエ 長沼利枝 (役職) 代表

1. 助成事業報告

事業名	地域資源及び伝承文化収集誌作成事業
目的	いしのまき地域での生活の中にアタリマエに存在した”生活の知恵”を市民の手で掘り起こし、持続可能な社会に向けた「基本知識」として収集する。 高齢化の進行や転居などによって、そのままにして置くと失われてしまう、暮らしの中の「基本知識」を集積／編集し、紙媒体(電子媒体を含む)冊子にまとめて後世に残す。 高齢化により伝承が途絶えると共に、関連する資料も散逸してしまう地域特有の文化や知恵＝「基本知識」を、そこに暮らす市民の手によって集積／保存することで、人々のアイデンティティの喚起と、コミュニティーの活性化に寄与する。
実施内容	参加対象：研究会会員及びそれに繋がる多くの市民の方々。 参加者各員の暮らし地域に伝承される「基本知識」＝食／文化／風習／言い伝えなどを、日々の暮らしや交流の中から(聞き書き等を通じて)見つけ出し、それを一旦、メモや散文形式で集積。 3カ月に1度開催する研究会の場で共有。収集した逸話や伝承、珍しい調理法などを、研究会参加者及び関連各者(識者)と整合して文章化。 編集とレイアウトを経て、文献＝(電子媒体を含む)冊子を作成。 公共施設や小中学校等教育機関、関連諸団体へ無償配布。
開始から終了までの流れ	2022年1月19日、研究会内での方針確認会議。 会員各者の課題意識に沿ったフィールドワークを開始 → カテゴリーを建て、それに沿った案件抽出や聴き取りを行う。 4月、研究会開催時に1月からのフィールドワークによる成果を会員内で共有し、協議。講師からのアドバイスを得ながら、冊子制作に向けた整備作業を遂行。 以降、会員は常時「基本知識」収集作業を進め、3カ月に一度(7、10、1月)の研究会開催に合わせて同様のプロセスで企画を遂行。会の開催毎に「基本知識」を原稿として積み上げて行く。

	<p>2023年1月からは編集作業を開始。 2月末までに原稿収集と編集を終え、レイアウト作業。 3月初旬印刷所入稿 → 中旬以降、B5版42ページ・300部製作完了。 公共施設や小中学校等教育機関、関連諸団体への配布態勢を確立。 各施設や教育機関との調整の上で配布を開始。 合わせて、電子媒体として関連する団体のホームページで配信。</p>
活動の成果と教訓	<p>事業の基本となる、“生活の知恵”などの地域情報を収集する学習会を4回 [4/29、7/23、10/30、1/28] と、分科会を適宜開催し、延べ83名が参加。200件以上の石巻に関する基本データを収集。 データ収集や調査に参加された個人は36名で、この活動に携わることコトで相互間の交流を深め、そこから新たな聴き取り先(地域のお年寄りなど)とのつながりを結んで、地域コミュニティーの活性化が成された考えます。</p> <p>収集されたデータは編集を加えて電算化し、冊子の体裁に合わせてレイアウト。そのデータを基にして、冊子(別途資料提出)300部を作成。 協力下さった皆様から集められた情報(データ)が、冊子として顕在化したことにより、関わった方々(協力者)のモチベーションが強化され、日々の暮らしの再点検や生活文化の掘り起こしに、更なる興味と意欲が湧いております。 また情報収集の中で出逢い交流を結んだ方々が、自発的に”お話し会”や”自主講座”を企画するなど、活動を通じたコミュニケーション&コミュニティーの活性化も見られます。</p> <p>この活動(事業)での気付きを基に、更に多くの石巻市民が地域資源や歴史、文化に興味を持ち、それを継続して収集し磨き上げることが、石巻に暮らす方々の大きな“底力”と成って行く事と期待します。</p> <p>そのことから、この活動は今回で終了することではなく、引き続き多くの仲間との協働を基に継続して行かねばならないと考えます。</p>
今後の展望など	<p>上記の[成果と展望]にも記しましたが … 地域の宝とも云い得る[伝承]や[食文化]や[風習]などは、それを伝え得る方々の高齢化や資料の散逸から、放って置くと途絶えてしまう怖れが有ります。この度、この活動に参加された方々もその意識を強くすると共に、大事な地域情報を収集する作業に於いて、市民の間に予想以上の交流が生まれ、コミュニティーの活性化につながったコトを意識します。 このことから、こうした事業は今後とも継続する意義を感じると共に、それを遂行する為の財源的な措置を考えなくてはならないと考えます。</p>

2. 助成金使途報告書

(1) 収入の部 (助成の対象となった事業の分のみ)

確保した資金内容	金額 (円)	備考
みやぎスマイル基金	300,000	

合計		300,000
----	--	---------

(2) 支出の部 (助成の対象となった事業の分のみ)

費目	内容	予算額	実支出額	助成金からの支出額	領収書 No.
編集	基本データ集約	30,000	15,000	15,000	1
	デザイン&レイアウト	50,000	100,000	100,000	2
印刷	B5・42頁 300部	160,000	145,000	145,000	3
電子媒体反映	冊子情報電子媒体反映	30,000	40,000	40,000	4
合計				300,000	

*用紙が足りない場合は他の用紙などで補ってください。

*収入の合計と支出の合計が一致していることをご確認ください。

3. 送付必要書類

(1) みやぎスマイル基金 助成活動報告書

(2) 領収書のコピー (助成金から支出した分のみ) 番号を振ってください

(3) 成果物 (活動をまとめた冊子、パンフレットおよび写真※など)

(※写真は HP に掲載可能なものを送付ください。)

活動の様子

学習会の開催 … 参加者と共に地域資源に関する情報収集 → 冊子の掲載要素となる地域情報を聴き取り。



情報と調査に基づく料理の再現 … 地域の方々と交流しながら聴き取りと郷土料理の再現と評価を行った。

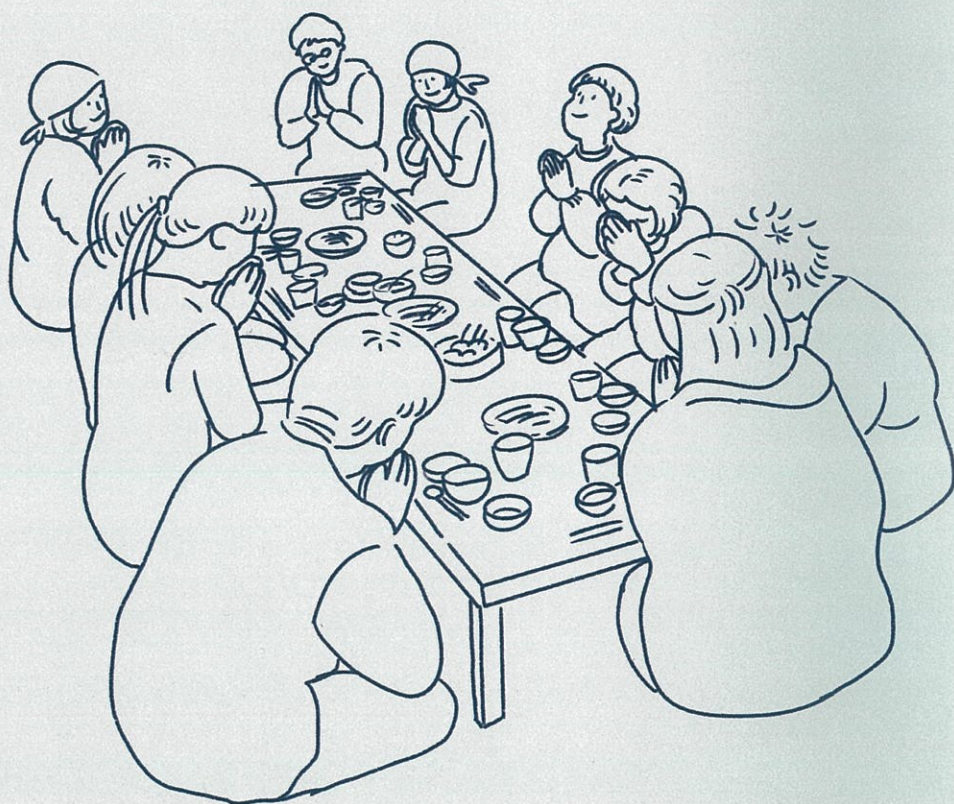


編集作業 … 収集された基本データをカテゴリー別に仕分け、冊子作成の編集方針やレイアウトを検討。



足元の

宝ものを



未来へつなぐ